

マネジメントコメントリー プロジェクトの状況

IASB テクニカル・フェロー ふじわら ゆき
藤原 由紀

はじめに

本稿では、前回の記事に引き続き、IFRS 実務記述書第1号「経営者による説明」(Management Commentary)を改訂するプロジェクト(以下「MCプロジェクト」という。)の状況をご紹介します。前回の記事ではプロジェクトのタイムライン、及び2018年9月に開催された第1回マネジメントコメントリー諮問グループ(Management Commentary Consultative Group)会議(以下「MC諮問グループ会議」という。)の概要についてご説明しました。本稿では、2019年1月に開催された第2回MC諮問グループ会議の概要についてご説明します。なお、本稿における意見にわたる部分はすべて個人的見解であることをあらかじめお断りします。

第2回MC諮問グループ会議の概要

MCプロジェクトの審議は3つのストリームにわけて行われており、第2回MC諮問会議

ではこのうちStream 2について議論が行われました。プロジェクト開始段階では、Stream 2の対象は「当年度の財務分析(financial analysis)及び将来予測的の情報(forward-looking information)」とされていましたが、第1回MC諮問会議でのコメント等も踏まえ、今回「業績、状態及び進展(performance, position and progress)¹」と整理し直しました。Stream 2はマネジメントコメントリー(MC)において「どのように」報告するかに焦点を当てており、「何を」報告するかについては、「ビジネスモデル、ストラテジー、営業環境」を対象とするStream 3で主に議論されることとなります。

イントロダクション

まず初めに、国際会計基準審議会(IASB)スタッフからStream 2の概要とスタッフ提案の概要が説明されました。詳細は以下で取り上げますが、ここでは議論の背景として、現行のMCの実務における「業績、状態及び進展」の報告において、特に問題だと考えられている点をご紹介します。IASBスタッフは、以下の3点に関する対応が必要だと考えています。

1 日本語訳ではややイメージが掴みづらいですが、「企業の将来の成長と成功につながるストラテジーを実行していくにあたっての、現在までの実績、現在の状態、及び計画の進捗状況」を意図しています。

1. 報告されている情報の範囲や内容が、財務報告の利用者のニーズに必ずしも一致していない。特に、以下の点が問題視されている。
 - a. 長期的視点からの理解を助ける業績情報の欠如
 - b. 財務業績以外の情報の不足による、業績理解の困難性
 - c. 業績指標の目的適合性の不足
2. 報告されている指標の選択基準及び検証可能性が不透明である。
3. 比較情報がないなど、指標の報告が利用者にとって有用でない。

現行のIFRS実務記述書第1号もこれらの点に触れていますが、その記述はかなりハイレベルなものにとどまります。IASBスタッフはより詳細なガイダンスを提供することが有用だと考えています。

財務業績

イントロダクションに続き、財務業績 (financial performance)²に関するガイダンスが議論されました。ここでのスタッフ提案は以下の3点に集約されます。

1. 財務業績の分析及び説明に関するガイダンスを提供する。当該分析及び説明は以下の2点で投資家を支援するものであるべきである。
 - a. 企業の主要な営業活動から生じる収益及び費用と、企業の将来キャッシュ・フロー生成能力を評価するのに有用ではないかもしれない収益及び費用とを識別する。
 - b. 企業の財務業績に期を超えて影響するトレンドを理解する。
2. 財務業績に影響する事項に関する様々な説明方法を議論する。

3. MCにおける調整後業績指標 (adjusted performance measures)に関するガイダンスを提供する。

提案の1点目は、企業の将来におけるキャッシュ・フロー生成能力を評価するのに有用な情報を利用者に提供すべきだという、MCの(そして財務報告の)目的に関連しています。例えば通例でない/頻度の低い (unusual and infrequent) 項目、企業のビジネスモデルから推察できないような取引、会計方針/見積りの変更等は、企業の主要な事業活動 (main business activities) から生じる収益及び費用とは性質を異にする(可能性がある)ため、これらを明確に識別することは利用者にとって有用であると考えられます。

提案の2点目は、例えばプロフォーマ情報(会計基準の変更による影響等、一時的な要因の影響を除いた試算値)の利用と、利用時に追加的に開示すべき情報などに関する議論を改定後のMCに含めるというものです。

提案の3点目は、調整後業績指標に関してです。調整後業績指標の利用は急速に増加しており、その有用性に関する評価も多い一方、経営者に都合の良い数値が選択されているなど利用者側の懸念も大きいため、これに対応するガイダンスを追加するというものです。

対象が財務業績という、財務諸表で報告されている内容に関わるものだけに、これらの提案はいずれも、IASBの別のプロジェクトである基本財務諸表プロジェクトにも関連しています。第2回MC諮問グループ会議も基本財務諸表プロジェクトのスタッフが傍聴しており、MCプロジェクトのスタッフも両プロジェクトで連携して検討を進めていくことを説明しました。

2 第2回MC諮問グループ会議資料及び本稿において、「財務業績」という語は企業の財務諸表で報告されている収益及び費用を指して使用しています。

これらのスタッフ提案に対し、MC 諮問グループメンバーからは、「なぜその業績指標を開示しているか」という理由の説明が非常に重要である、経営者が最も重要だと考えている指標を開示する際に他の情報と同程度にしか強調してはいけないというのは納得しづらい、財務諸表注記で求められている情報との重複を避けるべき、など様々なコメントが出され、活発な議論が交わされました。

事業業績

続いて、事業業績 (operational performance)³ に関する議論が行われました。現行の IFRS 実務記述書第 1 号は、事業業績に関する具体的なガイダンスを提供していません。IASB スタッフは、MC は事業業績に関する以下のような分析及び説明を提供すべきであると提案しました。

1. 収益の分散に関する分析 (単価、数量、顧客別平均売上高など、経営者が事業を管理するために使用している方法によるもの)
2. 費用の分析 (能率差異、操業度差異など、経営者が事業を管理するために使用している方法によるもの)
3. 利用者が費用と収益の関係を理解するために役立つその他の指標 (変動費率など)

これらのスタッフ提案に対し、MC 諮問グループメンバーからは、実務上 operational performance という用語自体がここは異なった意味で使用されるケースが多いことから、用語も含めて内容を検討すべきとの声が聞かれました。

ビジネスモデルの重大な要素に関する進捗

続いてのディスカッショントピックは、「将

来の成長に影響する事項」についてでした。具体的には、戦略を実行していくにあたっての進捗状況、将来予測情報及び数値目標、後発事象等がこのトピックに含まれています。ここでは 1 点目の「戦略を実行していくにあたっての進捗状況」のうち、ビジネスモデルの重大な要素 (critical features) に関する進捗について取り上げます。

まず範囲に関して、IASB スタッフは「重大な (critical)」要素のみを MC で開示する対象とすることを提案しています。このような修飾語は人により解釈が異なるため、可能な限り使用を控えたほうがよいという意見もありますが、この場合、この修飾語なしではほぼすべての事象が対象となると解釈されかねないためです。

次に、進捗の評価をサポートする情報に関連して、IASB スタッフは以下の点が重要であるという見解を説明しました。

1. 情報が事象固有である。
2. 分析は MC の目的に整合的である。
3. 情報は何年にもわたる進捗の評価をサポートするものである。
4. 情報によっては質的に表現されるのが最もよいものもある。

さらに、可能性のある影響額の理解をサポートする情報に関連して、IASB スタッフは以下の点が重要であるという見解を説明しました。

1. 影響額の子算自体は要求されない。
2. 情報は利用者が可能性のある影響額を理解することをサポートする。

これらの提案について、MC 諮問グループメンバーから様々なコメントが出されました。

3 第 2 回 MC 諮問グループ会議資料及び本稿において、「事業業績」という語は企業の主要な事業活動から生じる収益及び費用を指して使用しています。

今後の予定

今後のボード会議で引き続き審議が予定されているとともに、2019年4月に第3回のMC諮問会議が開催される予定です。公開草案の公表は2020年前半を予定しています。